

S2-4

我孫子市でのアンケート調査からみる地域住民の防災意識の傾向について

Disaster Awareness of Local Residents Based on a Questionnaire Survey in Abiko City

○仲村成貴¹, 井谷修², 山下博之³, 石坂哲宏⁴, 宮脇健³

*Masataka Nakamura¹, Osamu Itani², Hiroyuki Yamashita³, Tetsuhiro Ishizaka⁴, Takeshi Miyawaki³

This paper discusses the outline of the disaster awareness of the local population using the "Questionnaire survey on evacuation behavior in areas where flooding is a concern". The results indicate that the respondents of the survey have a relatively high level of disaster awareness. High disaster awareness was significantly associated with active participation in volunteer activities, installation of disaster prevention apps on smartphones, and high health literacy.

1. はじめに

住民の避難行動を確認し、防災意識とどのように関連するのかを検討するために、我孫子市民を対象として「水害が懸念される地域での避難行動に関するアンケート調査」が実施された¹⁾。本稿では、住民の防災意識に関する項目について結果の概要を報告する。

2. アンケート設問の概要

本アンケート調査では、住民の水害に関する意識を調査することを主な目的としており、防災全般や日常生活に関わる質問項目も設定している。質問項目は以下の6つに大別される。

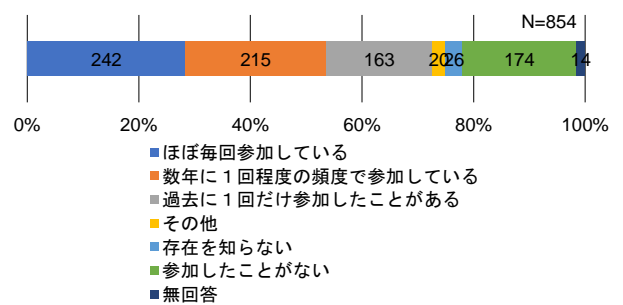
- ① 避難行動に関する質問
- ② 災害全般に関する質問
- ③ 冠水時の自動車の運転に関する質問
- ④ 防災意識に関する質問
- ⑤ 近隣との付き合いに関する質問
- ⑥ 回答者の属性に関する質問

3. 防災意識に関する調査結果の概要

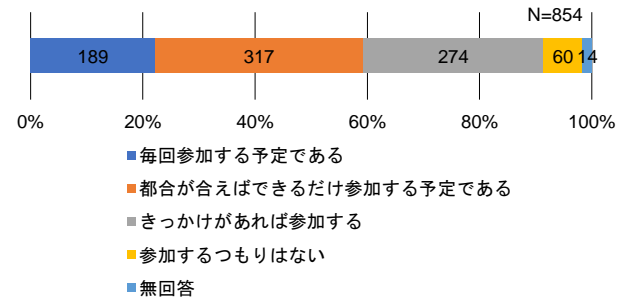
(1) 防災意識に関する質問項目

防災意識に関する主な質問項目の単純集計値をFigure1~2に示す。「防災訓練の参加状況」については、ほぼ毎回参加と回答した人の割合が28%であり、数年に1度(25%)あるいは過去に1回だけ(19%)と合わせると70%超が防災訓練の参加経験があった。「今後の参加予定」では、毎回参加予定が22%、できるだけ参加が37%、きっかけがあれば参加が32%と、多少なりとも参加の意思を表明している人が90%超に上る。「自宅での防災に関する備え」では多くの項目で半数近くあるいは半数以上の回答が得られたが、防災アプリで日頃から災害情報を確認していると回答した人は約27%に留まった。「ハザードマップを見たことがある」人の割合は90%を占め、その中で「ハザードマップを利用して具体的な避難経路などの備えを検討」したことのある人は52%に上った。本調査によるこれらの設

Q. これまでに自治体や自治会が開催してきた防災訓練への参加状況



Q. 今後自治体や町会・自治会などが開催する防災訓練への参加予定



Q. ご自宅で行っている防災に関する備え (複数回答可)

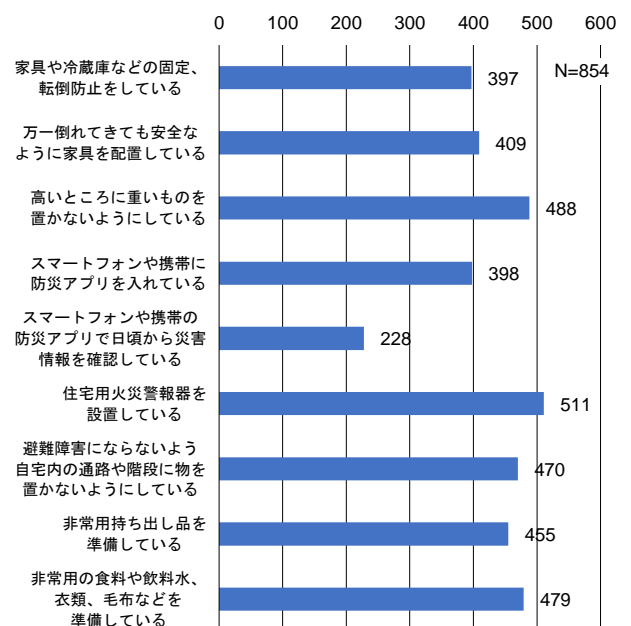


Figure 1. Questions and answers on disaster awareness

1: 日大理工・教員・まち 2: 日大医・教員・公衆衛生 3: 日大危機管理・教員・危機管理 4: 日大理工・教員・交通

問に対する回答率は、防災に関する世論調査(令和4年9月調査)での類似設問の回答率^[2]と比べて総じて高いことから、本調査では防災意識が比較的高い方々からの意見が反映されていることが示唆される。

(2) 防災意識尺度

本アンケート調査では、防災意識尺度を評価するための質問項目^[3]を加えている。評価結果として、防災意識尺度の得点分布を Tabel 1 に示す。最低点が52点、最高点が110点、平均点は81点、標準偏差は±9.6点であった。男女別の得点を箱ひげ図で Figure 3 に示す。女性の方が男性より有意に得点が高く得られた(t検定, $P=0.030$)。年代別の得点を箱ひげ図で Figure 4 に示す。各年代間では有意な得点差は認められなかった(一元配置分散分析, $P=0.074$)。防災意識尺度得点を目的変数とし、各種要因を従属変数とするロジスティック回帰分析を行い、防災意識に関連する要因を同定した。防災意識が高くなることと関係する要因として、性別が女性であること($P=0.017$)、ボランティア活動を行う頻度が高いこと($P=0.001$)、防災アプリをスマートフォンにインストールしていること($P<0.001$)、健康意識(ヘルスリテラシー)^[4]が高いこと($P<0.001$)が得られた。

4. おわりに

防災意識に関する質問項目への回答結果より、本アンケート調査の回答者は比較的高い防災意識を持っていることが示唆された。また、防災意識尺度の評価から、防災意識の高さは、ボランティア活動を積極的に行うこと、防災アプリをスマートフォンにインストールすること、ヘルスリテラシーの高さと有意な関連が認められたことから、これらの積極的な指導が防災上有益となる可能性が示唆された。今後は回答者の特長を丁寧に整理した上で、防災意識と各質問項目との関連をさらに分析する予定である。

謝辞 本研究は日本大学特別研究の助成を受けて実施したものである。本アンケート調査の実施に際しては、我孫子市およびまちづくり協議会、住民の皆様にも多大な協力を頂きましたことを拝謝申し上げます。

アンケートの倫理委員会に関する情報

承認番号 2023 - 007 承認日 令和5年12月8日
 課題名 水害が懸念される地域での避難行動に関するアンケート調査(迅速審査)
 研究責任者名 危機管理学部 准教授 宮脇 健

参考文献

[1] 山下博之, 仲村成貴, 石坂哲宏, 井谷修, 宮脇健: 我孫子市の住民への水災害の懸念に関するアンケート調査の概要と課題, 令和6年度(第68回)日本大学理工学部学術講演会, 2024.

[2] 内閣府: 防災に関する世論調査(令和4年9月調査), 2023. <https://survey.gov-online.go.jp/r04/r04-bousai/#T2> (最終閲覧日 2024年10月1日)

[3] Ozeki, M., Shimazaki, K., & Yi, T.: Exploring elements of disaster prevention consciousness: Based on interviews with anti-disaster professionals. Journal of Disaster Research, 12(3), pp.631-638, 2017.

[4] Ishikawa, H., Nomura, K., Sato, M., & Yano, E.: Developing a measure of communicative and critical health literacy: a pilot study of Japanese office workers. Health promotion international, 23(3), pp.269-274, 2008.

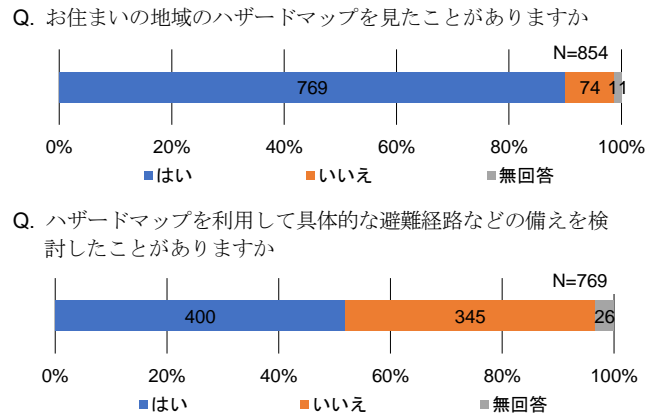


Figure 2. Questions and answers on disaster awareness

Table 1. Distribution of disaster prevention consciousness

防災意識尺度総合得点	N	%
54点以下	2	0.3
55~64点	24	3.2
65~73点	149	19.6
74~82点	253	33.2
83~91点	220	28.9
92~100点	95	12.5
101点以上	18	2.4
合計	761	100.0

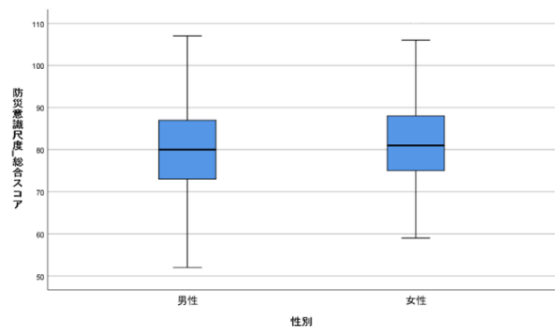


Figure 3. Gender differences in disaster prevention consciousness

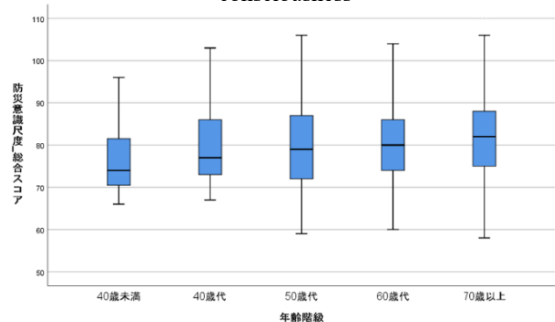


Figure 4. Age differences in disaster prevention consciousness